

今月のことば

ともに
正しいことも
あれば
間違うことも
ある
凡夫である

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

こいけ ひであき
小池秀章

聖徳太子は、仏教を根底として、日本を平和な世の中にしよ
うとされた方だと思います。それは、『憲法十七条』第一条に「和
を以て貴しとなす」とあり、第二条に「篤く三宝を敬え。三宝
とは仏・法・僧なり」とあることから、うかがえます。

しかし、聖徳太子は、日本を平和な世の中にするために、「み
んな仏教を学んで、立派な人になリなさい」と言われていたの
ではないと思います。第十条に、

「我かならず聖なるにあらず、彼かならず愚かなるにあらず。
ともにこれ凡夫ならくのみ」

とあります。私（我）が、いつも正しい立派な人間であるわけ
ではなく、私以外の人（彼）が、いつも間違っている愚かな人
間であるわけでもない。ともに正しいこともあれば間違うこと
もある、平凡な人間であるということです。

つまり、仏教を通して、「ともに凡夫である」ということに、
気づかされるからこそ、平和な世の中に向かう道が開けて
くると、考えていたのだと思われます。

親鸞聖人は、この「凡夫」を、「ただひと」（平凡な人間）で
はなく、「ぼんぶ」と読み、「煩惱具足の凡夫」、つまり、「煩惱
が充分具わっている愚かな人間」という意味で使われています。
そして、その凡夫とは、「仏さまの教えを聞いて明らかになっ
た自らの姿である」と、受け取っておられるのです。そのこと
も、忘れてはならないと思います。

合掌